場所　熊本県上天草市

面積　4.22ha



活動目的

ここ上天草の教良木は、自然豊かな場所。地元の子供達が、気軽に社寺林に入れるように、お遍路の参道を日々整備し、森林学習路として、照葉樹林に触れ、野外学習ができるようにしている。大人には、心身ともにリフレッシュできる場を提供できるように努めている。

サイト概要

本サイトは、標高215mの天面山の山麓に位置し、寺の門前には教良木川が流れ、春にはホタルが舞う川となる(上天草のホタルの飛来は４月）。周辺の盆地では水田が広がる。境内の社寺林は、シイが優占する照葉樹林が形成され、サイト内には、ため池も存在している。周辺は、スギ・ヒノキ林に囲まれている。天面山のほとんどが植林されたスギ・ヒノキ林になっている中で、本サイトのエリアは、社寺林の鎮守の森として残された照葉樹林となっている。社寺林内には、88基の石仏が安置されており、新四国八十八ヶ所お遍路として、現在もお遍路の参道は整備されている。また、このお遍路の参道を活用して「森林学習路」として、地元の小学校の野外学習や保育園の引率散歩の道としても活用されている。

土地利用の変遷

古寺があったが、1647年に、三代将軍家光の命を受けて初代代官鈴木重成が再建立した曹洞宗の寺院である。創建当時は、禅の修行僧が数多く入山して修行に励んでいた場所でもある。江戸時代末期には、裏山に八十八の石仏を安置して祀り、天草新四国八十八ヶ所霊場として、多くの人々が訪れた。周辺の山林は、時代とともに、薪炭や植林で、様変わりしているが、金性寺の社寺林は、お遍路の存在もあり、寺院の建立以来、大々的な伐採は行われる事なく、照葉樹林が形成している。

サイト周辺の環境

本サイトは、標高215mの天面山の山麓に位置し、寺の門前には教良木川が流れている。周辺の盆地では水田が広がる。境内の社寺林は、シイが優占する照葉樹林が形成され、サイト内には、ため池も存在している。周辺は、スギ・ヒノキ林に囲まれている。

アピールポイント

周辺の山林が、時代とともに、スギ・ヒノキの植林へと変貌する中、本サイトは、鎮守の森として残された照葉樹林が存在する。八十八ヶ所お遍路を活用して、樹木に樹種名を記載したプレートを設置し、地元子供達が、野外学習できるように整備している。境内は開放しており、近隣にある保育園児が、毎日のように、保育園の先生の引率で、散歩コースに活用している。ハス寺としても名勝の寺である。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

周辺はスギ林に囲まれた照葉樹林で、胸高直径80cmを越えるシイが点在し、お遍路の参道入り口は、アラカシが多く分布し、参道を登ると、タブノキ、モチノキ、カクレミノ、ヤマモモの高木が存在し、低木には、ヒサカキ、サカキ、ユズリハ、シキミが存在する。ため池には、セキショウ、ススキ類が分布し、数種類のトンボ類が飛び交う。

【主な植生】

照葉樹林、竹林、スギ林、ため池、ハス池

【確認された主な動植物など】

【植物】
ハス、スイレン、セキショウ、ショウブ、スダジイ、ツブラジイ、アラカシ、タブノキ、カゴノキ、シキミ、ヒサカキ、サカキ、ヒノキ、スギ
【両生類】
ヌマガエル、シュレーゲルアオガエル
【昆虫】
マユタテアカネ、コシアキトンボ、ハグロトンボ、モノサシトンボ、リュウキュウベニイトトンボ、コバネイナゴ、オオアメンボ、シマアメンボ、コカマキリ、ハンミョウ、ヒメゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、ヒメガムシ、タマガムシ、ヤマトゴマフガムシ
【哺乳類】
コウベモグラ、タヌキ、テン、イノシシ、ニホンジカ
【魚類】
ドンコ、カワムツ



写真の説明：お遍路の参道



写真の説明：サイト内のため池

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

社寺林内にある天草新四国八十八ヶ所のお遍路は、台風等で、地蔵が倒れたり、倒木で道を塞ぐ事があるので、定期的に整備している。2014年には、市から活動援助金を得て、お遍路周辺の樹木に樹種名の札を設置するなど、野外学習用に整備して地元小中学校に活用されてきた。また、近所にある保育園児の散歩コースにもなっており、季節に応じて、例えば秋であればドングリ、クリ拾いなど、自然体験の場となっている。

【主な植生】

照葉樹林、竹林、スギ林、ため池、ハス池

【確認された主な動植物など】

【植物】
ハス、スイレン、セキショウ、ショウブ、スダジイ、ツブラジイ、アラカシ、タブノキ、カゴノキ、シキミ、ヒサカキ、サカキ、ヒノキ、スギ、マダケ
【両生類】
ニホンヒキガエル、ニホンアカガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエル
【昆虫類】
マユタテアカネ、コシアキトンボ、ハグロトンボ、モノサシトンボ、リュウキュウベニイトトンボ、コバネイナゴ、オオアメンボ、シマアメンボ、コカマキリ、ハンミョウ、ヒメゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、ヒメガムシ、タマガムシ、ヤマトゴマフガムシ
【哺乳類】
コウベモグラ、タヌキ、テン、イノシシ、ニホンジカ



写真の説明：境内にてクリ拾いをする保育園児達



写真の説明：ため池脇のお遍路

生物多様性の価値

価値（5）伝統工芸や伝統行事といった地域の伝統文化のために活用されている自然資源の供給の場

【場の概況】

三代将軍家光の命を受けて再建立された金性寺の社寺林は、江戸期後期には、88の石仏を安置して、天草新四国八十八ヶ所霊場として、数多くの人々がこの地を訪れている。お遍路として聖域の認識が定着し、周辺では伐採され植林される中、この社寺林の照葉樹林は鎮守の森として残された。現在では、信仰の他に、観光客がお遍路を訪れ天草の森林浴を楽しまれている。お遍路を日々整備していく中で、樹種名の札を設置するなどして、地元小中学校の野外学習の場としても活用され、近所にある保育園児の散歩コースでもある。

【伝統文化等の名称】

・天草新四国八十八ヶ所霊場（お遍路）

【活用している自然資源】

鎮守の森として残された照葉樹林としての社寺林
スダジイとツブラジイが混在する島嶼である天草に典型的なシイ個体群が優占する照葉樹林。その他にアラカシ、タブノキ、カゴノキの高木に、低木層には、シキミ、ヒサカキ、サカキが存在しており、この照葉樹林に、88基の石仏を安置し、お遍路として整備している。お遍路に倒木があった場合は撤去するが、その倒木は、社寺林外に持ち出さず、社寺林の安全な場所に置き換えて土に返す。現在は、限りなく、自然状態に保つ整備管理を行っている。



写真の説明：寺の正門前



写真の説明：お遍路に佇む地蔵

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

境内の社寺林には照葉樹林に囲まれたため池が存在する。岸際には、セキショウが生え、オギやミゾソバの個体群が存在している。ため池には、数種類のトンボ類が飛び交い、イシガメ、ニホンアカガエル、ヌマガエル、ニホンヒキガエルが確認でき、水生昆虫では、ミユキシジミガムシ等が生息する。

【確認された希少種】

【両生類】
環境省レッドリスト2020に掲載されている両生類１種が確認されている。
ニホンヒキガエル　熊本県 準絶滅危惧
ニホンアカガエル　熊本県 準絶滅危惧

【爬虫類】
ニホンイシガメ　環境省 準絶滅危惧、熊本県 準絶滅危惧

【昆虫】
ミユキシジミガムシ　環境省 準絶滅危惧(NT)、熊本県 絶滅危惧IB類(EN)
その他、レッドリストくまもとに掲載されている1種の昆虫類が確認されている。



写真の説明：ため池に生息するミユキシジミガムシ



写真の説明：ため池に生息するイシガメ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

金性寺の社寺林の管理は、お遍路の整備が基本である。

【1】 お遍路の整備
　基本的には、随時行う。
　特に、豪雨等が発生した時は、お遍路の参道を中心に見回り、倒木等の撤去作業を行う。倒木については、照葉樹林の林床に運び、自然にまかせて朽ちさせる。

【2】イベントの開催
　年１回のお寺のお祭りは、寺の伝統的な記念行事なので必ず行う。お祭りでは、集まった檀家の家族が、天草新四国八十八ヶ所霊場であるお遍路を回る。このお遍路の存在によって、照葉樹林が守られてきた。
　年末年始は、寺のハス沼にて、竹の灯籠イベントをおこなう。これには、小学校、保育園、地域住民も参加して、境内の竹林を活用して竹の灯籠作りを行う。この行事は、地域交流、および地域活性に繋がり、竹林の程良い整備となっている。

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
・社寺林に生息する生物、季節の草本類
・ため池に生息する生物

【モニタリング場所】
・社寺林
・ため池

【モニタリング手法】
・社寺林　お遍路の参道を中心にしたラインセンサス
　社寺林の任意の場所にて、録音機を設置。
・ため池　網捕獲

【モニタリングの実施時期及び頻度】
・録音機は、一回で5日間、１月、5月、9月を予定。
　社寺林のラインセンサスは随時。
・ため池は、年一回程度、6月前後。

【モニタリング実施体制】
モニタリングについては、「くまもと里と山研究所」に協力を頂く。